

琉球における孔子祭祀の受容と学校

Acceptance of Confucian Ritual and Schools in the Ryukyu Kingdom

系数兼治

①はじめに

②孔子廟祀

③明倫堂

④官 生

⑤国 学

⑥むすび

【論文要旨】

琉球で孔子が祭られるようになるのは1610年のことで、久米村（代々中国への進貢事務に携わったいわゆる閩人三十六姓の居住地、現那覇市久米町）の蔡堅（喜友名親方）なるもの、進貢の途次山東省曲阜の孔子廟に立ち寄り、その車服礼器を見て敬仰の念を起し、孔子及び四配の像を画いて持ち帰り、輪流して祭ったのがその始めだという。孔子廟の創建は1679年のことである。学校施設を伴わない単独の孔子廟であった。久米村子弟のための学校（明倫堂という）の創設は1718年のことである。

中国では古くから学校があり、唐代以後は儒学振興のため府州県学には孔子廟が付設され、学問の淵源すなわち先師孔子を忘れないため、春秋二仲（2、8月）上丁の日に孔子祭りすなわち积奠が行なわれ、全国的に普及する。ところが琉球においては孔子廟創建時府州県学に相当するものは未だ設置されておらず、したがって孔子廟が先行するのはやむをえない事情があった。しかるに1683年来琉した尚貞の冊封正副使汪楫・林麟焮は「州県、皆な学（校）を建てしより、吾が孔子の廟祠、始めて天下に遍ねし。然れども学（校）以外、いわゆる廟なし」とい、祭りを主催する者も地方官（郡守・知県）であり、学校関係者（博士・弟子）が主体となって行われるのであるから、中国の制度に倣って学校を設けるべきだとしている。このため1717年呈請、翌1718年完工、明倫堂と名づけ、ここに廟学完備するに至った。

これを契機に1749年ごろ首里王府官僚の養成を目的とした首里・那覇・泊の子弟のための教育機関の設置が別途構想されるが、その実現は1798年以降のことであるが、すなわち高等、中等、初等教育機関たる国学・郷学・村学校所の設置である。

林麟焮は福建の人で、帰任後貴州提学僉事に転出している。教育に熱心な人だったようで、後年、程順則は林麟焮に手紙を送り、琉球のため大いに教化を興し、学校を建てたことを讃えている。